

【緑地を楽しむ本】

『トナカイに生かされて シベリアの遊牧民ネネツ』

たくさんのふしぎ 2020年11月号

長倉洋海 写真/文 福音館書店



私は北海道生まれで、アイヌの人達の生活にある程度関心がある。アイヌは狩猟生活を営み、自然を大事にして生きてきた。

ネネツの生活はアイヌに似たところもあるが、ほとんどをトナカイに依存していると

ころがすごい。ネネツの神話では「神は人間を創り、火を与え、人が生きていけるようにトナカイを与えた」とあるそうだが、本当にその通りなのだ。

ツンドラ地帯に住むトナカイを家畜として飼っているのは、スカンジナビア半島とシベリアだけである。

トナカイは生活物資を運搬し、肉を与えてくれ、血も貴重な栄養源である。皮はテントや衣類になる。トナカイを売って現金も得られる。ネネツの人々にとって、トナカイは家族のような存在だという。

人間の生活の多様さ、ネネツの知恵の深さに感動するとともに、このような生活が続けられるように、祈りたい気持ちになった。

(齋藤好子)